

まずは、現状を知ることから

増え続けるごみ、適切に処理されずに捨てられるごみ、町や地域・学校では児童・生徒・町民がごみに対し目を向け、ごみを減らすためにさまざまな取り組みが行われています。ここではそのいくつかを紹介いたします。

きれいになるって気持ちいい

のごみが集まりました。

親子で ごみゼロ運動。 県道沿いに 見つけたものは…

常磐 埴地区

全国的に広まっているごみゼロ運動。5月25日、多古町全域でもごみ拾いが実施され、各地区の沿道などから拾われたごみは、合計3・7tにもおよびました。(そのうち、約1t分が空き缶)常磐の埴地区では、県道沿いの約1kmを子どもたちと親が2班に分かれて1時間ほど拾い歩きました。短い距離ですが、それでも3袋ほど

「今年も空き缶やペットボトルなどのごみが多かったです」「結構ごみが落ちているところは、地域の人がたたくでなくて多古町以外の知らない人たちが多く通る道路沿いでした」「小学校の授業で、ごみ処理場に見学に行つたけれど、



草が生えている場所にはごみが多い。道路沿いの田んぼにも空き缶が

職場体験で 美化ボランティア。 花壇が いとおしく…

多古中学校

6月5日、中学校の職場体験授業として役場都市整備課で国道の美化活動ボランティアの仕事を経験した中学生4人に、感想を聞きました。

「国道の花壇に花を植える準備として、今まで植えてあった花の引き抜きと、肥料まきを手伝いました。ボランティアの方々の手伝いができてよかったし、作業を体験してみると、きれいになることは気持ちがいいものだと思いました」「今までは、正直なところこの花壇のことは気にしなかったけど、これから花が植えられたら意識するようになると思います」

「それと、タバコの吸い殻が多かったのが気になりました。吸い殻も含めて、ごみがなくなればもっときれいになると感じました」「たぶん、ごみを捨てる人は『見てなきやいや』『小さいからいや』『自分の家じゃないからいや』なんて思っているんじゃないかな」



花壇脇の溝には、たばこの吸い殻やビニール袋などが目立つ

みを1時間ほどかけて拾い歩きました。空き缶や空きビン、お菓子の空き箱から靴に至るまで、いろいろなごみが捨てられていたことに対し、参加した生徒たちは、「自分たちの町を自分たちがごみを捨てて汚すのはなぜなんだろう?」「ごみは、ちゃんと分別したうえでごみ箱に捨てなくてはダメ」「知らない人が捨てたごみを自分が拾うのは不快に感じる。仮に逆のことを考えると、きち

んとしなければならぬ」と活動の感想を述べました。今回の活動をきっかけに、「クラスや校内においてもごみ拾いやきちんとごみを分別する生徒が増えました。今後この活動を続けることで、校内はもとより町全体にもごみに対する意識が広がればいい」と管理部長の萩原先生は話します。

小さな一滴から大きな流れへ

美化活動から 学んだ 分別のこと、 環境のこと

多古高等学校



道路脇の空き缶、車の窓から捨てられたのだろうか? 拾い集めたごみも、校内から出るごみも生徒たちによりきちんと分別されます

生徒への環境問題に対する意識付けを目的に初めての試みとして、まずは一部の生徒らによる美化活動が行われました。

6月27日の放課後、多古高校美化委員の3年生とJRC部(青少年赤十字)を合わせた10名が3班に分かれ、学校を中心とした町内に捨てられているご

ごみってなに?!

ここで、ちょっと考えてみましょう。ひと口に「ごみ」と言いますが、ごみってなに? 何がごみなの?

実は、定義はないんです。というの、私たちは、一般的にいらなくなったものをごみと考えますよね。ところが、誰かにとっては要らないものが他の人にとって必要なものになることがあるからです。

また、「捨てればごみ、分ければ資源」なんてキャッチフレーズ聞いたことはありませんか? 焼却や埋め立て処分するのはな

く、新しいものに生まれ変わることでできるものもあります。例えば、新聞紙はトレットペーパーに、ペットボトルは新しいペットボトルや衣類などになります。

きちんと分別することで、ごみではなく資源となるものも多いためです。資源としては、ビンや缶などは言うまでもありませんが、資源にもかかわらず、実は可燃ごみとして意外に多く燃やされているものが「プラスチック容器(プラ)類」なんです。プラ類も大切な資源です。

